

者にとって、他のとくに人文科学系の諸先生の御意見は大変勉強になった。

とくに山田慶兒先生の適切なコメントが印象的であった。

夕食後はゲストの特別講演や折り紙・習字・太極拳などで国際親睦をという粋な企画がなされた。おそらく参加者全員が通常の学会やカンファランスでは得られない充実した日々を過ごされたことと思う。

またこのシンポジウム開催にあたって裏方で終始準備・運営に尽力された酒井シヅ先生、鳥海壽子さんら順天堂大学医史学研究室のなみなみならぬ御苦勞に深謝したい。

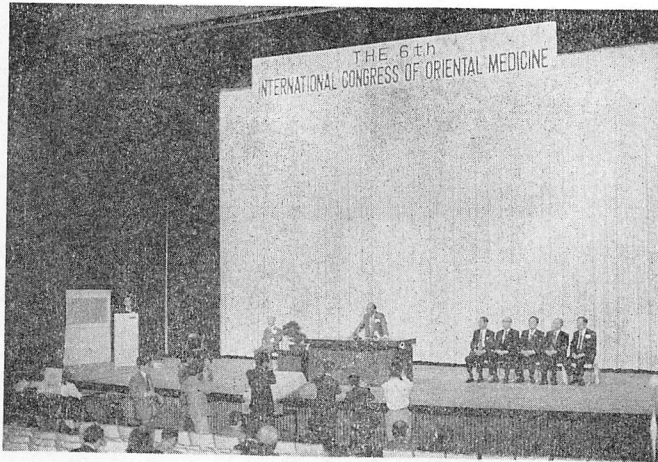
なお残念なことといえはヨーロッパの医学史に造詣の深い川喜田愛郎先生が突然の御病気で欠席されたことであつた。先生の日も早い御回復をお祈りしたい。

またこのようなすばらしいシンポジウムが今後も引き続き開催されることを関係各位および谷口氏に切に願ひたい。

(花輪 寿彦)

第六回国際東洋医学会・医史学シンポジウム

十月十九日から二十一日の三日間、東京の国立教育会館にて第六回国際東洋医学会（ICOM）が開催された。当学会では左記の二つの医史学シンポジウムがあり、内外研究者の発表と討論が日・英・中の同時通訳でなされた。



○シンポジウムⅥ「医学文献と学術交流の歴史」(十月二十一日、午前九時〜十一時、座長：大塚恭男(日)、エルス・マリー・アンバッケン(スエーデン)▽

一 中国・朝鮮・日本における医学文献の伝播—十二世紀以前
小曾戸 洋(北里研・東医研)

二 東西交流

史に見る

医薬文化

東野治之

(大阪大

学)

三

日本と中

国・朝鮮

間の医学

文献と学

術の交流

—十三世

紀以降

真柳 誠

(北里研・

東医研)

近代中国

における

伝統医学

四

と西洋医学 趙洪鈞（中国・河北中医学院）

五 朝鮮の東洋医学歴史文献と中国・朝鮮の東洋医学交流 孫

思明（中国・延辺医学院）

○サテライトシンポジウムⅡ「アジア伝統医学の国際交流史」

八月二十一日、午後一時半～四時半、座長・矢数道明・大塚恭

男

主催 日本東洋医学会

共催 日本医史学会・東亜医学協会・北里研究所附属東洋医学

総合研究所

実行委員長 矢数 道明

開会の辞 矢数 道明

一 医学情報交流と文献資料の歴史 王 平（シンガポール中

華医院）

二 中・近世における伝統医学の国際交流 宗田 一（日本医

史学会常任理事）

三 東西医学の窓口としての長崎の役割 酒井 シヅ（順天堂

大学）

四 昭和期における東洋医学の国際交流 津谷 喜一郎（東京

医科歯科大学）

追加発言 矢数 道明

閉会の辞 山田 光胤

（真柳 誠）

「初代曲直瀬道三顕彰碑」建立・除幕式

昭和六十二年九月、矢数道明先生の主唱のもとに、日本東洋医学会、日本医史学会、東亜医学協会は先哲医家追薦委員会を結成し、曲直瀬玄朔以下歴代今大路家の菩提寺である祥雲寺（東京渋谷）において、初代道三生誕四八〇年祭を行い、法要・記念講演・記念展示等を行った。その時以来、道三の墓石のある京都の十念寺（京都市上京区寺町通り今出川上ル、住職君野静賢師・浄土宗西山派）の境内に顕彰碑を建立し、日本医学の中興の祖ともいふべき初代道三の功績を、永遠に称えようという気運が盛り上ってきた。

そこで日本東洋医学会、日本医史学会、東亜医学協会が主催団体となつて、初代曲直瀬道三顕彰碑建立準備委員会を結成して、平成二年十一月初旬を目的に、碑を建立することを議した。

ここで概略の経過を報告する。

二月十二日、東京より矢数会長の意をうけて、土屋・小曾戸委員入洛、京都より細野・坂上・杉立各委員が十念寺に任職を訪ね、顕彰碑を建立したき旨をのべる。任職は当方の主旨に全面的に賛同し協力する。ただし本堂の新築計画があり、明年二月から一年間をかけて新築する。したがってその工事にかかる前に、碑を建立していただけたら好都合との話を承る。

五月二十日、矢数道明会長の御熱意を承る。

六月、杉立は君野任職をたずね、実行に移らせていただく旨を